

動労千葉 組織部報

第11号

2018年

3月23日

【発行】動労千葉組織部

☎043-222-7207

FAX 043-224-7197

✉doro-chiba@doro-chiba.org

職場に必要なのは闘う組合! 動労千葉に結集しともに闘おう

会社派御用組合ではならぬ!

会社の手で御用組合が立ち上げられようとしています。3月20日、東京総合車両センターを中心にして「JR東日本新鉄道労働組合（新鉄労）」の結成大会が開催されるなど、各地で会社派の新組合が立ち上げられようとしています。そこでは、「労使共同宣言の無い組織にはいられない」「会社の発展を通して組合員の幸せを實現」と語られています。さらには社友会という社員組織の立ち上げが始まっています。

やり方は、30年前の国鉄分割・民営化の時と同じです。管理者などを中心に、会社の手でいくつもの組合がつけられ、会社への協力を競うような形で一つに束ねられていく。それは、労働者の権利も何もすべて売り渡し、会社施策に率先して協力していくための組合であり組織です。こんな組合にいつかはならない。声を上げることもできない職場にされ、自分の首を自分で締めることとなります。

労働組合としての存在価値失った東労組

東労組東京・八王子・水戸地本の職場討議資料には、「地域労働組合の結成を画策」「分社化・支社再編の先取り」

「別会社の労働組合を意図」「4万人体制を目指した生産性向上と効率化施策を推進するため」「営業職場の業務委託子会社化」「工務職場のCBM導入・全面委託」「運車職場のワンマン化・乗務員勤務制度の見直し」といった言葉が踊っています。

東労組には会社からこうしたことが水面下で説明されていた。しかし、それは組合員には隠されてきたのです。なぜ、これほど重大なことが組合員に明らかにされなかったのか。それは、現場の怒りがふき出して、会社と幹部との結託体制を回復できなくなることを恐れたからです。会社の力に依拠して自分たちの地位を維持し、組合員の権利も売り渡し、保身のためにスト権までもてあそんだ東労組幹部。もはや東労組に労働組合としての存在価値はない。今回の事態は東労組幹部自身が行ってきたことの結果です。

会社の力によるのではなく、現場労働者自身の団結した力で立つことのできる労働組合が必要です。動労千葉は闘いによって、労働者の団結した力で会社施策を止められることを示してきました。職場で働く者のために闘う組合を！すべての仲間が動労千葉に結集しよう。